

TTC ゆった〜り山行実施記録表

2013年6月5日 報告者：菊地友弥

山行名		六義園と旧古河庭園の散策 (東京都)		
実施日	平成25年06月03日(水) 日帰り 公共交通利用			
天候/参加人員	天候：晴れ レベル：☆ 参加者：申込9名/実施8名(男2名/女6名)			
パーティスタッフ	CL： 計画/SL：、救護：、写真： スタッフ名削除			
参加メンバ	氏名削除 (休会中メンバ1名参加)			
費用 1,780円+525円 (本厚木起点)	費用：65歳以上 1,500円/一般 1,730円(その他、大谷美術館入館料:525円) 本厚木⇄新宿@480円×2=960円 新宿⇄JR駒込@160円 王子⇄新宿@210 入園料：六義園 65歳以上 150円/一般 300円 旧古河庭園 65歳以上 70円/一般 150円、別途料金として大谷美術館入館料 525円			
	歩行時間	休憩時間	行動時間	
計画	4~5時間	2~3時間	7時間	歩行距離：約 10.6km 歩行数：約 12,000歩
実行	4:18	0:40	4:58	
実行コースタイム記録				
小田急線	山手線	0:07	(散策・昼食)	0:23 (館内見学・散策) 0:19
本厚木 = = = 新宿 = = = JR 駒込	六義園	10:16	10:30	12:07 12:30 14:33
8:58	0:04	京浜東北線	湘南新宿ライン	小田急線
飛鳥山公園	JR 王子	赤羽	新宿	本厚木
14:52 15:10	15:14	15:23		17:00頃
コースの概要、特記事項、反省事項等				
<p>前日に MS さんから風邪で体調不良のためキャンセルの電話があり、8名の参加者になった。定刻に全員が本厚木駅に集合、計画通りの電車を乗り継いで JR 駒込駅に降り立った。構内のパン屋で昼食を調達する人、数名あり。駅前の本郷通りを 500メートルほど南に歩くと六義園の正門に着く。赤レンガの塀をまわした正門に「六義園」りくぎえんとふり仮名を振った比較的新しい木製の表札が掲げている前で集合写真を撮る。IE さんを除く 7名はシニア料金 150円で(成人 300円)入場、入ってすぐ大きな枝垂れ桜の木が目につく。由緒によれば樹齢は 70年くらいと書いてある。「なーんだ俺より若いじゃ・・・」しかし花の季節は多くの観光客を集める人気のスポットになるとの事、さも有りなん・と枝ぶりに納得。六義園の観光パンフレットに拠れば 5代将軍・徳川綱吉の信任が厚かった川越藩主、柳沢吉保が元禄 15 (1702) 年に築園した和歌の趣味を基調とする「回遊式築山泉水」の大名庭園です。池をめぐる園路を歩きながら移り変わる景色を楽しめる繊細で温かな日本庭園と紹介しています。面積が 87,809 m²あり見る人に都会の喧騒を忘れさせる癒しの空間でちょうど池の廻りのサツキが満開だった。月曜日とあって人も少なくゆっくり廻ることが出来、園内のベンチで昼食を済ませ次の見学場所、旧古河庭園にむかう。六義園から駒込駅に戻る方向へ歩いて 23分ほどの距離にあり白壁の高い塀に囲まれた大きなお屋敷という雰囲気だ。旧古河庭園と書かれた大きな表札の前で集合写真を撮る。洋館内の見学をガイド付きで予約をして有ったので 1:00 の集合時間までバラ園を見学、残念ながらバラの花は盛りを過ぎて色褪せた花が点在するだけだった。しかし 6月 9日までバラフェスタが開催されている事も有って見学者も多かった。館内見学者は 40名ほどいて靴をスリッパに履き替えてガイドをしてくれる若いお嬢さんにくっついて 1階と 2階を一緒に廻る。パンフレットの説明書に拠れば旧古河邸は古河財閥の 3代目当主寅之助氏の本邸として鹿鳴館、ニコライ堂、旧岩崎邸等の設計者として著名なイギリス人建築家ジョサイア・コンドルの設計により大正 6年 (1917) 5月に竣工したと書いてあります。建物の外観は重厚な小松石(真鶴産)の石造りの構えだが内部は天井が高く木材を吟味し壁紙や調度品もしっかりと落ち着いた洋館の造りである。1階は主に来客用に使用されていたとの事、各部屋に立派なマントルピースが有るが天井が高いため部屋が温まるまで相当の時間がかかったとガイドの説明があった。この館の最大の特徴は 2階の造りに有るとガイドのお嬢さんが強調しておられた。2階に上がってみると一見 1階と同じ様な洋風の造りだがヒノキつくりの重厚なドアを開くと格子戸やふすまに仕切られて居住者の好みを巧みに組み込んだ和室になっていて、意外さに驚く。窓から見えるバラ園と低地の日本庭園がこの館を一層引き立てているようだ。たっぷり 1時間の館内見学は疲れたが興味深く飽きなかった。ここで予定の見学は終わりだったが王子駅近くの飛鳥山公園を廻って帰るも由となり 8代将軍吉宗が桜を植えて江戸市民に開放したという、今も桜の名所である。山というより丘陵で山全体に大きな桜の木があり花見の時期はさぞ人が出ると思われる。この飛鳥山には博物館が三つ「紙の博物館」「飛鳥山博物館」「渋沢栄一資料館」があり覗いてみたかったが月曜日は休館だった。お疲れ様でした。</p>				